

公立大学協会

一般社団法人公立大学協会ニュースレター Vol.7/No.2

2012年8月28日発行（通刊第27号）

【発行責任者】奥野 武俊（一般社団法人公立大学協会会長／大阪府立大学長）

【編集責任者】中田 晃（一般社団法人公立大学協会事務局長）

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimku@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/



公立大学は82大学となりました。

第1回高等教育改革フォーラム(7月3日、東京グランドホテル)

「公立大学にふさわしい認証評価制度のあり方について」を終えて

公立大学協会副会長／第3委員会委員長 浅田 尚紀(広島市立大学長)

5月24日の定時総会において、今年度の重点課題の一つとして認証評価制度について検討を行うことを確認し、その一環として7月3日に第1回高等教育改革フォーラム「公立大学にふさわしい認証評価制度のあり方について」を開催した。公立大学の学長、副学長、職員らに加えて、文部科学省、大学基準協会、大学評価・学位授与機構、日本高等教育評価機構、国立大学協会等から計95名が出席し、活発な議論が行われた。

本協会の奥野武俊会長、文部科学省の板東久美子高等教育局長、中央教育審議会の佐々木雄太大学教育部会長からの挨拶に続き、文部科学省の義本博司高等教育企画課長(当時)から「評価制度の課題と文部科学省における検討状況について」、中田事務局長から「公立大学にふさわしい認証評価基準について」の報告の後、パネルディスカッションを行った。

パネリストには、大学基準協会の工藤潤事務局長、名古屋市と三重県の公立大学法人の評価委員長を務める森正夫先生、清原正義兵庫県立大学長、奥野武俊会長を迎え、認証評価機関の立場から、公立大学法人評価と認証評価を熟知する立場から、認証評価を受審した公立大学の立場から、本協会を代表する立場からそれぞれ発言をいただいた。工藤氏からは、認証評価の項目や基準について本協会と連携しながら改善を図りたいとの意見に加えて、認証評価機関としての研究機能や財務運営につ

いてコメントがあった。清原学長からは、大学評価・学位授与機構の認証評価について、人的・時間的・経費的負担が大きい、評価結果が大学改善に活かさない、実地調査の議論を重視して欲しいなど、改善に向けた具体的な指摘があった。森先生からは、公立大学法人評価において教育・研究項目が重視され、認証評価との重複による負荷の点や地独法の趣旨の点からも、現状の制度と運用に大きな課題があることが指摘された。奥野会長からは、設置自治体と密接な関係にある公立大学の特性を理解した上で評価を行うことの重要性が指摘され、評価者・被評価者を相互経験することで評価者を育てるとともに評価の質向上を図る構想が語られた。

その後、会場からの質問を受け、ディスカッションに入った。新たな認証評価機関の必要性や本協会との関係に関する質問については、現状は既存機関の評価基準に公立大学に

必要な評価基準を加えた素案を作成し各関係機関と協議している段階であり、大学基準協会や大学評価・学位授与機構が行っている評価基準の見直しに対する具体的な提言であると同時に、評価基準や認証評価制度そのものの課題解決に向けた問題提起でもあること、現在行っている本協会の活動の大部分が認証評価のプロセスを含んでいること、公立大学が積極的に進めている情報公開(大学ポートレート)によってアクレディテーション部分の負荷は大幅に軽減できることなどの説明がなされた。

本フォーラム終了後のアンケートでは、認証評価制度の現状、公立大学特有の課題、本協会が提案する新たな認証評価の検討状況がよく理解できた、タイムリーな企画として有意義であった等の回答が寄せられた。

今後は、9月の地区協議会での協議を経て、11月の学長会議において新たな認証評価に関する取り組み方針について審議する予定である。



一般社団法人 公立大学協会 定時総会報告

5月24日(木) 東京・学士会館にて一般社団法人として最初の定時総会(通算第77回)が開催されました。

■ 全体会議

開会にあたり、奥野武俊会長の挨拶の後、来賓の板東久美子文部科学省高等教育局長、横山忠弘総務省財務調査課長、中喜多孝之大阪市東京事務所長(全国公立大学設置団体協議会代表・代理)にご挨拶をいただきました。

続いて、池田貴城文部科学省大学振興課長より、高等教育行政についての基調講演をいただきました。

■ 委員会拡大会議、事務局長等協議会

午後は3つの委員会拡大会議及び事務局長等協議会が開催されました。

* * *

第1委員会(出席者:22名)

テーマ: 大学教育部会審議のまとめに見る教育の質的転換の取組み

司会: 佐々木雄太 委員長

ゲストスピーカー:

大学基準協会 鈴木典比古 専務理事

鈴木専務理事より、中教審大学教育部会審議のまとめを踏まえて、①学生は勉強しない、②教員は密度の濃い授業をしない、③教学プログラムにガバナンスがない、の3つの「ない」を「ある」に変えることこそ、学士教育の質的転換への取組みそのものであると話されたのを受け、会場から質問が寄せられました。

その後、学生が学修時間を確保するためのハード面の施策について議論がなされ、寮や図書館等の学修環境の整備や、経済的支援の充実が課題だとの指摘がありました。

* * *

第2委員会(出席者:30名)

テーマ: 公立大学の国際化戦略を巡って

司会: 木苗直秀 委員長

ゲストスピーカー:

名古屋大学 濱口道成 総長

冒頭に濱口総長より、名古屋大学では秋入学の準備として一部講義の英語化を進めており、他にも事務職員や教員の英語力及び交換留学体制の強化、単位互換と質の保証、学生

の留学意欲の向上、就職活動との連動等々、様々な課題を包括的・体系的に改善する必要があるとのお話がありました。さらに、多様な価値観と文化が混じる一方で伝統を維持することも大切であり、今後もグローバルな発展をめざすと述べられました。その後、秋に入学することになった学生のギャップターム中のモチベーション維持やグローバル化についての大学の対応、サポート体制について議論が行われました。

* * *

第3委員会(出席者:33名)

テーマ: 自治体の大学政策と学長ガバナンスー地域再生の核としての大学モデルを巡って

司会: 浅田尚紀 委員長

ゲストスピーカー:

文部科学省 義本博司 高等教育企画課長

まず、義本課長より高等教育を取り巻く環境について、同省の大学改革タスクフォースでもCOC機能の強化が重要とされ、地域課題の解決に大学が力を発揮するなど、地域において大学が果たす役割が重視されていること等が説明されました。

出席者からは、設置団体の首長が替わることへの対応や、教育関連でない部署が大学の担当部署である場合の大学への理解など、設置団体との関係構築を中心に意見交換がなされました。

* * *

事務局長等協議会では「地方自治と公立大学法人制度を巡って」をテーマに、総務省財務調査課・久芳猛志係長にご講演をいただきました。

■ 定時総会(議案審議)

以下の議題について審議を行いました。

○議案第1号「新会員入会について」(鳥取環境大学)

○議案第2号「平成23年度公立大学協会及び一般社団法人公立大学協会事業報告及び決算について」



総会会場内の様子

○議案第3号「平成24年度一般社団法人公立大学協会役員を選任について」

○議案第4号「平成24年度事業計画及び収支予算について」

総会審議終了後、平成24年度第2回理事会が開催され、近藤倫明理事が副会長に選定されました。

平成24年度一般社団法人公立大学協会役員等名簿
(平成24年5月24日現在)

役職名	所属・職名	氏名
会長	大阪府立大学長	奥野 武俊
副会長	静岡県立大学長	木苗 直秀
〃	広島市立大学長	浅田 尚紀
〃	北九州市立大学長	近藤 倫明
地区選出理事		
(北海道・東北)	岩手県立大学長	中村 慶久
(関東・甲信越)	山梨県立大学長	伊藤 洋
(東海・北陸)	金沢美術工芸大学長	久世 建二
(近畿)	和歌山県立医科大学長	板倉 徹
(中国・四国)	高知工科大学長	佐久間 健人
(九州・沖縄)	長崎県立大学長	太田 博道
指名理事	青森県立保健大学長	リボウィッツよし子
〃	首都大学東京学長	原島 文雄
〃	大阪市立大学長	西澤 良記
監事	秋田県立大学長	小間 篤
〃	名古屋市立大学長	戸畑 創
顧問	都留文科大学長	加藤 祐三
〃	横浜市立大学長	布施 勉
〃	山口県立大学長	江里 健輔
相談役	元 愛知県立大学長	森 正夫
〃	前 北九州市立大学長	矢田 俊文
〃	前 秋田県立大学長	小林 俊一
〃	前 愛知県立大学長	佐々木 雄太
事務局長	公立大学協会	中田 晃

新任学長等懇談会

5月25日(金)、25名の出席のもと、新任学長等懇談会が開催されました。中田事務局長による「公立大学を取り巻く状況の変化と公立大学協会の活動」の情報提供の後、「公立大学のガバナンスと運営」のテーマで会長・副会長から話題提供があり、活発な意見交換が行われました。

平成 24 年度公立大学職員セミナー（7 月 18～20 日 参加 95 名及びファシリテータ 5 名 計 100 名で開催）報告

全国から意欲ある職員が集まり、多くの学びの成果を上げました

公立大学 SD 作業部会 春日井 隆司 主査（愛知県立大学学術情報部長）

今回のセミナーは、高等教育に関する講演や報告が「気づき」を促す啓発的な要素と、問題解決や合意形成の手法、発表力を学ぶ「スキルアップ」の要素で構成しました。

職員として日々感じる多くの課題はセミナーに参加しただけで解決されるものではありませんが、大学職員として生涯学び、努力し続けることの大切さを実感し、共に学び合う多くの仲間がいることが感じとれば、セミナーはその目的を半ば達成できているといえます。意欲ある学

びの主役が全国から集まったこと自体、大変貴重であり、ここで生まれた「学びの循環」は、明日の力になると確信しています。

アンケートへも、感謝の言葉とともに、職員としての自覚、チャレンジ精神が喚起されたなどの感想が寄せられました。前年のアンケートを分析し、要望の多かった課題解決ワークショップ、グループ討議を主軸に、それらと講演とを関連させたことが、満足度を高めたと分析しています。特に、事前課題は負担でもあったと

と思いますが、基礎知識と期待感を持ち寄っての参加となったことで、密度の高い学びとなりました。

今後は階層別や分野別、課題別研修が必要となるかもしれません。また、ファシリテート技法やプロジェクトマネジメント技法等、各大学での SD の実践に必要なスキルの習得も盛り込む必要を感じています。

いくつかのポイントを改善しながら、3 年間は同内容で開催し、セミナーの成果を検証していければと考えています。

参加者から感想を寄稿頂きました(敬称略)

■宮城大学 吉川 陽大

私は、法人からの指名により大学職員となって初めて 2泊3日の外部研修に参加しました。当初は「仕事が溜まるな…」と負担感が先に立ち、正直前向きな気持ちでの参加ではありませんでしたが、初日が終わり、懇親会やワークショップを通して顔見知りが増えてくるに従い、自分が普段抱えている業務上の悩みなどが公立大学全般の現状でもあることが再認識でき、あっという間の3日間でした。

初日の「業務改善ワークショップ」で、コーディネーターの方が我が班に来た際、「公立大学職員はこれだけ多くの業務を抱えて、どうやって乗り切っているのか？」という話題となりましたが、私は「ガッツと時間外労働です」と答えました。この言葉が班のみなさんと3日間、共通の合言葉になったことが、遠い昔のようです。恒常的な時間外労働を本研修で得たノウハウを活かして改善し、たくさんの仲間とのネットワークを糧に今後の職員生活に邁進していきたいと思っています。

■首都大学東京 小室 有利

昨年の参加者からの薦めがきっかけで、セミナーへの参加を昨年から漠然と心に決めていました。

正直なところ、気軽に申し込んだのですが、事前課題の多さと難しさについていけるだろうかと不安がよぎりました。しかし、その不安はすぐに吹き飛びました。公立大学について様々な立場・視点から語られる講演や、個人や大学業界が抱えている問題の共有や解決策を考えることができたグループワーク。どれも興味深く、考えさせられるものばかりでした。これから自分には何が出来るだろうか、わくわくするような感覚を覚えました。何より、普段関わる機会の少ない他の公立大学職員の方々との交流

できたことが大きな収穫でした。公立大学ならではの共有できる悩みや課題があることを実感し、このネットワークを大事にしていきたいと思いました。

この3日間は想像以上のものを得ることができ、大変充実したものとなりました。セミナーを通じて感じたことや得たつながりを、実際の業務でしっかりと活かしていきたいと思っています。

■静岡文化芸術大学 鈴木 康博

本セミナーは、公立大学を取り巻く状況と公立大学特有の課題（設置団体・地域との連携、大学事務経験の少ない職員による運営等）、大学職員の役割・業務の進め方について考えるよい機会となりました。

セミナーでは講演に加え、参加型のグループ別ワークショップが多く、「主体的な発言」「周囲の方と連携した企画立案」が必要でした。参加者は法人採用職員、設置団体派遣職員など、雇用形態や経歴などが違いましたが、皆さん「大学職員として何ができるか」についての意識が高く、前向きな姿勢に刺激を受けました。グループ討議で行った「課題の洗い出し・目標の共有」→「方策の企画立案」→「発表・提案」は、普段の業務の流れそのものであり、今後に生かすことができると強く感じました。

公立大学は学問系統や規模、地域の違いはありますが、このセミナーを通じてできた他大学の方とのつながりを今後も生かし情報交換を行うなど、切磋琢磨し、共に高めあっていきたいと思っています。

■大阪府立大学 河口 友紀

新卒着任3カ月での本セミナー参加は、大変貴重な体験となりました。

まず、認証評価体験ワークショップでは、自大学の特色や強み、取り巻く環境等について積極的に学ぶ良いきっかけとなりました。さらに、評価者と被評価者の両方の視点から、大学が適切に評価されることの難しさを感じ、職員として大学運営に関係する法令等を理解しておく重要性を痛感しました。

また、他大学の職員と交流するなかで、公立大学に共通の課題があることを感じ、それぞれの大学に個性があることを改めて実感しました。他を知ることから大学の理解が深まったと思います。経験豊富な職員の方のお話が大変勉強になりました。

今回のチャンスを与えてくださった皆様に感謝するとともに、望まれる公立大学を目指し、これから

も私なりに努力してまいりたいと思います。

■福山市立大学 飯田 佳男

開学2年目の本学からは、私が初めて本セミナーへ参加しました。

初任者研修では、経験年数の浅い職員同士で情報交換ができ、各々が初任者でありながらも、自らの大学の特色を紹介する様子から、他大学の初任職員も頑張っていると感じました。また、講演では、公立大学の現状と職員に求められる仕事に対して、情報や課題を共有できました。この講演を踏まえたグループワークでは、大学職員が今すべき仕事について、積極的な提案を多く聞くこともできました。

本セミナーへの参加により、普段は顔の見えない他大学の職員を知り、公立大学職員としての仲間意識を痛感するとともに、他大学の優れた点を知ること、大学としてのライバル意識が芽生え、公立大学職員間で切磋琢磨する起爆剤になったと確信しています。今後、より多くの職員が参加し、人とのつながりや情報の共有化による課題解決への契機になればと思います。

■福岡県立大学 浦 悠子

プロパー職員となった今年、公立大学職員セミナーに参加する機会を得ました。協会の皆様には、刺激的で楽しく、充実したセミナーを企画していただいたことに感謝いたします。

今回のように「公立大学」についてじっくり学べたことは得がたい体験でした。ワークショップは特に印象深いです。同じ公立大学職員であり、また事前準備や講演等での共通理解の効果もあったと思いますが、セミナーが進むにつれてより深く話し合えたように感じられました。グループの多彩で多才なメンバーには多くを教えられ、刺激的であると同時に、楽しくリラックスした雰囲気の中で活動することができました。このような温かい、励まされる仲間達との出会いも何よりの経験となりました。

振り返ると、セミナー全般を通して「自分はどうのような職員となるか」をより意識する姿勢を得ることができたと感じます。自分の知識不足、経験不足を痛感することともなりましたが、協会の皆様の情熱、参加者の方々から受けた刺激は忘れられません。セミナーで出会った多くの仲間達に追いつけるよう、「知識、情熱、行動、たゆめぬ努力」の備わった職員を目指し、励んでいこうと思います。



新学長の紹介(11大学)

平成24年1月1日以降に就任された学長と新たに入会された大学の学長のお名前、専門等をご紹介します(敬称略)。なおカッコ内は現任期。



釧路公立大学

高野 敏行(たかの としゆき)
独語、哲学
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



札幌市立大学

蓮見 孝(はすみ たかし)
プロダクトデザイン、地域振興デザイン
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



青森公立大学

香取 薫(かとり かおる)
情報科学、ネットワーク経営論、地域情報政策、数理分析
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



山形県立保健医療大学

青柳 優(あおやぎ まさる)
医学(耳鼻咽喉科学)
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



愛知県立大学

高島 忠義(たかしま ただよし)
国際法
(H24.4.1 ~ H27.3.31)



滋賀県立大学

大田 啓一(おおた けいいち)
環境化学、地球化学
(H24.4.1 ~ H27.3.31)



鳥取環境大学

古澤 巖(ふるさわ いわお)
植物病理学・ウイルス学・植物分子生物学
(H24.4.1 ~ H26.3.31)



九州歯科大学

西原 達次(にしはら たつじ)
感染分子生物学
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



福岡県立大学

柴田 洋三郎(しばた ようさぶろう)
組織細胞学・分子解剖学・電子顕微鏡学
(H24.4.1 ~ H28.3.31)



大分県立看護科学大学

村嶋 幸代(むらしま さちよ)
公衆衛生看護学
(H24.4.1 ~ H27.3.31)



宮崎公立大学

井上 雄二(いのうえ ゆうじ)
(H24.4.1 ~ H25.3.31)

新会員大学紹介

鳥取環境大学

学 長:古澤 巖
所在地:鳥取市若葉台北1丁目1-1
学 部:環境学部、経営学部
学生数:829、教員数:58、職員数:33
(平成24年4月1日現在)



鳥取環境大学は、鳥取県と鳥取市が設置する公設民営の私立大学として2001年4月に開学し、「人と社会と自然との共生」を基本理念に掲げ、環境を専門に学ぶユニークな大学としてスタートしました。

2012年4月より鳥取県と鳥取市が設置する公立大学法人への移行とともに、「総合力の高い環境人材の育成」「鳥取の環境を生かした実践的学習」「循環型社会の実現」「理想的な居住環境の創造」を目指す環境学部と、「海外で活躍できる人材の育成」「地域経営の担い手の養成」「経営の基礎を身につけた即戦力人材の育成」「経営に活用できる情報技術の修得」を目指す経営学部を新設しました。

自然環境保全と人間の経済活動の2つの視点をバランスよく兼ね備えた人材を育成します。

公立大学協会の主な活動の記録 (H24.4.1 ~ H24.7.31)

役職名、組織名は全て日付当時

4月

9日(月)★第5回平成24年度大学入試センター試験に関する検証委員会傍聴(文科省)

10日(火)★大学基準協会主催 大学評価(認証評価)に関する実務説明会出席(早稲田大学)

12日(木)★第3回日中大学フェア&フォーラム第1回推進委員会(JST)

16日(月)★大学教育部会傍聴(文科省)

17日(火)★第1回理事会、第1回各委員会合同会議(メルパルク東京)

19日(木)★文科省グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会傍聴(スクワール麹町)

20日(金)★大学分科会傍聴(文科省)

26日(木)★第6回平成24年度大学入試センター試験に関する検証委員会傍聴(文科省)

5月

10日(木)★大学教育部会傍聴(文科省)

21日(月)★大学教育部会傍聴(文科省)

24日(木)★定時総会、委員会拡大会議、第2回理事会(学生会館)

25日(金)★新任学長等懇談会、運営会議(学生会館)

29日(火)★大学教育部会、大学分科会(近藤副会長発表)(文科省)

6月

7日(木)★大学教育部会傍聴(文科省)

7日(木)~8日(金)★公立大学協会図書館協議会(中田事務局長出席)(秋田ビューホテル)

14日(木)★公立大学にふさわしい認証評価に関する勉強会(協会事務局)

15日(金)★第1回運営会議、公立大学の質保証に関する特別委員会(協会事務局)

18日(月)★国立大学協会総会傍聴(学生会館)

19日(火)★大学教育部会傍聴(文科省)

20日(水)★大学評価・学位授与機構主催 大学機関別認証評価等に関する説明会(一橋講堂)★就職問題懇談会(伊藤理事出席)(文科省)

25日(月)★公立大学協会担当者説明会(実態調査票

の作成に関する説明を含む)(メルパルク東京)★
日中フォーラム委員会(JST)
27日(水)★日本高等教育評価機構主催 大学、短期大学評価セミナー出席(アルカディア市ヶ谷)

7月

2日(月)★全国公立大学設置団体協議会(奥野会長、中田事務局長出席)(ヴィアール大阪)

3日(火)★第1回高等教育改革フォーラム(東京グランドホテル)

4日(水)★第3回公立大学の質保証に関する特別委員会、第3回理事会及び委員会(合同会議)(東京グランドホテル)

5日(木)★UMAPワーキンググループ(中田事務局長出席)(学術総合センター)

6日(金)★看護・保健医療部会(神戸市看護大学)

10日(火)★図書館協議会(秋田ビューホテル)

18日(水)~20日(金)★公立大学職員セミナー(国立オリンピック記念青少年総合センター)

【プログラム】

- 講演「公立大学職員に期待すること」(愛知県立大学 春日井 隆司 学術情報部長)
- 大学を知るための認証評価体験ワークショップ
- 業務分野別課題解決ワークショップ
- 講演「公立大学と大学職員のありかた」(奥野武俊会長)
- 個別課題交流会

- 講演「大学改革の動向を踏まえた今後の公立大学について」(田頭 吉一 大学振興課課長補佐)
- 大学教育の質的転換を考えるワークショップ

24日(火)★大学教育部会傍聴(文科省)

27日(金)★医科歯科部会(レプラー玉山)

事務局より

高等教育改革フォーラム、また公立大学職員セミナー及び公立大学法人会計セミナーには、多くの方にご出席いただきまして、ありがとうございました。今後は、地区協議会及び部会、学長会議が控えていますが、引き続きご協力よろしくお願いいたします。